

1. 市民と社会活動

今日横浜市における都市化は急速に進んでいる。しかもそれは必ずしも都市の内部に蓄積された力が、成長し発展した結果ではない。むしろそれは、現在の地域開発が端的に示しているように、一貫して推進される経済や政治の要請がもたらしたものである。その間に、市民の生活も一段と経済に制約され、政治に左右されてきている。そのために、市民生活のあらゆる面で、従来からの問題が解決され克服されないままに、つぎつぎに新しい問題が外から持込まれ、つけ加えられていく。横浜市民は彼らの生活や社会活動の中で、かかる変化をいかに受け容れ、どのようにそれに対応しているのだろうか。ここでいくつかの問題をとり上げて考えてみることにしよう。

隣り近所の交際とか、自分たちの住む地域社会への協力などは、従来、社会生活のなかで最も重要な部分であると考えられていた。自治会、町内会の存在理由も、以上のような考え方に立って説明されてきた。しかし横浜市が首都圏地域の一環として、位置づけられ再編成されるなかで、地域組織もその性格を変えつつあり、その役割もまた複雑になってきている。そのために自治会、町内会の存在理由に疑いを持ったり、地域組織が現在果たしている役割を否定する人たちも段々と増えてきている。

同様のことが横浜の市政のあり方や、国政についてもいえる。都市化の進む中で、地域格差もまた拡大する。この格差の拡大は市民に日常生活を通じて政治への目を向けさせ、市民としての要求を政治の上で実現させるルートを求めさせることになる。横浜市における各種選挙の投票や、市民団体の政治活動などにも、

その辺の事情がみられるはずである。

都市化の進行は、またそれぞれのもつ都市の持味を失わせていく。横浜らしさというものも段々と姿を消していく。一体、横浜市民はどのような文化を求めているのだろうか。東京に近いということが、この点で果して横浜市民にとってどんな意味をもつのだろうか。横浜で展開されている文化活動の中で、どんな文化が創られてゆけだろうか。ここにも横浜市民として大いに考えなければならない問題がある。

これらの問題について、これまであまり深く検討されたことがなかった。それに問題が問題だけに、市民の意識の中にまではいってみなければ、本当のところは判らないともいえる。いまここでは、手にはいる資料の枠の中で、以上の問題のりんかくを描き出してみよう。